

感動県政 あさのめ新聞

埼玉県議会活動報告 2015.10.15 vol.45

発行 埼玉県議会 民主党・無所属の会 さいたま市浦和支部 〒330-0043 さいたま市浦和区大東1-11-1-501

おのおの・もとひろ 昭和38(1963)年11月12日川口市生まれ。祖父は、川口市長を務め、埼玉県知事選挙に出馬した大野元美氏。慶應義塾大学法学部政治学科卒業、国際大学国際関係学研究科修士課程修了。アラブ首長国連邦、カタール、ヨルダン、シリアの日本大使館で書記官などを務める。(財)中東調査会上席研究員。コメンテーターなどとして、テレビ、ラジオの出演多い。平成22年から参議院議員。野田第3次改造内閣で、内閣府大臣政務官・防衛大臣政務官。

あさのめ・よしひで 昭和33(1958)年5月27日東京生まれ。生後すぐから山形県米沢市育ち。法政大学社会学部卒。小学校教員を経る。隣接の上尾市で全国最年少の25歳で市議初当選。市議4期(25歳~41歳)。全国最年少の37歳で議長。上尾市長選挙次点敗退。予備校講師、鮎井屋でひたすらマグロを切る仕事、武正公一代議士政策秘書など政治浪人7年余を経て、平成19年、「感動県政」をスローガンに埼玉県議会議員初当選。平成27年三期当選。



参議院議員 **大野元裕**
文化フォーラム **命を守る**



埼玉県議会議員 **浅野目義英**
県政報告会 **県議会改革とは何か**

日時 **2015年 平成27年 11月22日(日)** **開場 18時**
18時半~20時45分

会場 **浦和ロイヤルパインズホテル**
4階ロイヤルクラウン
●さいたま市浦和区仲町 2-5-1 ●048-827-1111

会費 **10000** 円 (懇親会費含)
※誠に心苦しいのですが時節柄お許し下さいませ。なお、いい夫婦の日にちなみ、ご夫婦でのご来臨の場合、お二人様で15,000円とさせていただきます。

第11回 あさのめ県政報告会 & 文化フォーラム参加お申込書



(ご出席 ご欠席 代理) ○でお囲みください

ご芳名 _____ ご同伴者 _____

TEL _____ FAX _____

ご住所 〒 _____

メールアドレス _____ 事務所からご案内等をお送りさせて頂く場合があります。

おひとこと _____

お問い合わせ・お申し込み
埼玉県議会 民主党・無所属の会 浦和区支部 (あさのめ事務所) 〒330-0043 さいたま市浦和区大東 1-11-1-501
TEL048-883-6560 FAX048-881-0527 e-mail: yasanome@gikai.pref.saitama.jp
www.asanome.com **浅野目義英**
埼玉県議会議員浅野目義英

埼玉県議会9月定例会ご報告

県民が主役を貫く

▼上田清司知事の4期目就任後初めてとなる9月定例会が、9月24日からスタートし10月15日まで開催されました。

▼さいたま新都心医療拠点(さいたま市中央区)の整備が進められています。同エリア内の県立小児医療センターの機能強化を図るため、遠隔胎児診断支援システムが導入されることになりました。

▼先天性疾患の胎児の治療が飛躍的に進むこととなります。

※3P参照

▼国道140号(皆野秩父バイパス)改良工事などの公共事業費が可決されました。

▼7月16日から17日にかけて、大型で非常に強い台風11号に埼玉県が襲われました。この豪雨で被災した一級河川(不老川)狭山市南入曾地内)などの護岸破損の復旧費用も可決されました。

※下写真参照

▼何より重要な国際貢献と思われませんが、埼玉県が有するノウハウを用いて、ラオスへの水道技術支援をする関連経費も可決されました。

※2P参照

▼9月定例会県議会では、このように小ぶりながら5億158万円の2015年度一般会計補正予算案など計13議案が提案されました。審議の結果、可決されました。いずれも「県民が主役を貫く」価値ある予算となりました。

▼補正後の一般会計の累計予算額は約1兆8295億円となりました。

▼9月定例会県議会初日、上田清司知事は4期目に向けたあいさつで、「県民の負託に応えるため、県の発展に全力を尽くす。初心に立ち返り、市町村や経済界、医療や福祉関係者とも連携しながら、今後4年間の県政運営に全力を傾ける」と決意表明しました。

▼県政については、選挙時に掲げた「埼玉NEXTイニシアティブ構想」に基づいて運営していくことを強調しました。

75歳以上の後期高齢者が急増する「2025年問題」に対応するため、地域包括ケアシステムの構築や女性の社会参加の活躍の推進、先端産業の創出に取り組み方針も示しました。

補正予算5億円が成立

支持差を詰め、当選の報告をする民主党の浅野目義英氏(左)とさいたま市浦和区

選挙区	当選者	得票数
県議 南9区	浅野目義英	18,202
当選者	荒川 岩雄	16,040
	小林 司	10,879
	阿部 健仁	1,896

高級フルーツゼリー 彩果の宝行



土木施設災害復旧費4000万円が可決された。

人前後に進めるため、3選を決めた南9区(さいたま市浦和区、定数2)の浅野目義英氏(66)は二緒にやるスケールメリットはある」と積極論を打ち出す。

統一地方選挙・トップ当選 あさのめ3期目をスタートしました

公選法により、当選御礼は禁止されています。ご理解をお願い申し上げます。

世界中の水を飲めるように

埼玉県がラオスで行う国際協力事業

▼埼玉県企業局は、これまでも技術者の派遣や研修員の受入などの国際技術協力を、世界規模で実施してきた。昭和63年〜平成12年には、JICAを通じて、イエメン、タイ、フィリピン、バングラデシュなどに、延べ8名の水道技術職員を派遣した。支援内容は、水道整備計画策定指導、施設の維持管理技術、水質管理技術（地下水ヒ素汚染対応等）の指導だ。

▼現在、ラオスでは、都市部でさえも、安全な水道水の供給を受け

ることができているのは2010年現在約55%。
2020年までに都市部給水率を80%まで上げるというラオスの国家計画実現を、アジア開発銀行（ADB）やフランスとともに、浄水場の改善や拡張などの協力を実施し、支援していく。

▼埼玉県企業局が持つ技術を使い、きれいで安心な水を多くのラオス国民に安定的に供給できるようにする予定だ。



▼何より重要な国際貢献と思われる。また技術支援を行いながら、現地のニーズをつかみ、今後の水道事業の展開を模索することができると期待されている。ラオスの水道でのビジネスチャンスの可能性を探ることができるとも考えられる。

ラオス人民民主共和国
インドシナ半島にある共和制国家。人口約660万、首都ヴィエンチャン。ASEAN加盟国中唯一の内陸国。国土の約70%は高原や山岳地帯。国際連合の基準では、後発開発途上国と位置づけられている。またラオス政府の定義では「人口の3割が貧困ライン以下にある」という。



海を越えて支援は続く
▲埼玉県職員からレクチャーを受ける海外水道技術職員



▲ラオスは日本から4000km離れている。日本の3分の2の面積。人口は日本の18分の1だ。東南アジア最後の秘境だと言われている。



大宮、浦和周辺 地域警察力より強固に

▼新しい大宮警察署の統合庁舎（大宮区北袋町一丁目・三菱マテリアル総合研究所跡地）新築工事の契約締結が承認された。

▼浦和区上木崎三丁目まで47年間活動を続けてきた、科学捜査研究所も、新大宮警察署の隣接地に移転して来る。面積約1万1千㎡に、7階建ての建物など3棟建設される予定。地域警察力はより強固になる。

▼同新築工事の一般競争入札は昨年7月から4回も行われた。落札業者の不祥事で契約が認められなかったいきさつがあった。

生まれてくる赤ちゃんの命を救う画期的システム

▼さいたま新都心医療拠点に「遠隔胎児診断支援システム」を整備する予算も可決された。この予算の成立で高精度の超音波診断装置（3D、4D画像）が整備されることになった。

さいたま新都心医療拠点の経験豊かな医師から、県内産科医療機関（現在26か所）の医師が、先天性疾患を有する胎児の診断などのサポートを受けることができるようになった。

妊婦・胎児が遠隔地にいるため、また通院することが困難な場合でも、専門的見地から、適切で正確な診断を受けることができる。

すでに開始の遠隔診断 しかし胎児診断は日本初

▼実は、徳島県立海部病院での医療過疎地域・循環器領域の遠隔診療システム、旭川医科大学での眼疾患に対する緊急遠隔医療支援、信州大学での在宅医療のための人工呼吸器の遠隔監視の試みなどが始まっている。成果を収めている。

地域を見守る在宅医療支援の一端を担う手法として、すでに日本の医療過疎地域などで、数多く始まっている。

▼ただし、埼玉県が赤ちゃんの命を守るために、意欲をもって取り組んだ「胎児の遠隔診断支援システム」の導入は、日本初とも言われる。

日本初！埼玉県遠隔胎児診断支援システム 遠く離れていても命を救う決意



胎児のために早期診断 命を守る正確な判断下す

▼埼玉県保健医療政策課によると、赤ちゃんの先天性疾患の発生率は0.7%、推計で約1千件の疾患が疑われる事例があるという。

▼埼玉県では、この先天性疾患の赤ちゃんを、何とか早期発見しようとしてらんでいる。早期発見できれば、正確な治療の計画を立てることができると。そうすれば小さな命とお母さんの命を、数多く救うことができるようになる。

画期的システムがスタートする。

▲さいたま新都心医療拠点の航空写真（本年6月撮影）
小児医療センターと日本赤十字病院が並んで建ち、ブリッジで結ばれる。救助へりも離発着でき、県内中の「命を守るセンター」となる。
平成28年（2016年）中にオープン予定。



上田清司知事 4期目当選

有権者数 5,856,376人
投票率 26.63%

氏名	得票	得票率
上田 きよし	891,822	58.48%
つかだ 桂祐	322,455	21.15%
柴田 やすひこ	228,404	14.98%
石川 英行	49,884	3.27%
たがだのぶひろ	32,364	2.12%



▶槌音が響き、建設が急ピッチで進められている（本年9月撮影）